

世界の主要拠点 (平成21年3月31日現在)

国内

本 社	横 浜						
営業拠点	仙 台	八王子	松 本	大宮(さいたま)	太 田	東関東(柏)	
	名古屋	福 井	静 岡	大 阪	京 都	岡 山	福 岡
事 業 所	福 井		加 賀				



Sodick
株式会社 ソディック

〒224-8522
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
TEL:045-942-3111
FAX:045-943-5835
(証券コード:6143)



●このカタログは FSC 森林認証用紙と大豆インキを使用しています。

ホームページのご案内

<http://www.sodick.co.jp/>

株主の皆様からの声をお待ちしております。

当社では、株主の皆様からのご意見・ご質問をお受けしております。
お気軽に下記のメールアドレスまでお寄せください。

メールアドレス ir@sodick.co.jp



モバイルサイトのご案内

<http://www.sodick.co.jp/mobile>

展示会情報・サポート情報・ソディック製品にまつわる最新情報等を
随時更新しています。



第33期
事業報告書

平成20年4月1日～平成21年3月31日

Sodick

Business Report

株式会社 ソディック

Sodick Corporate Highlights 2008.11-2009.6

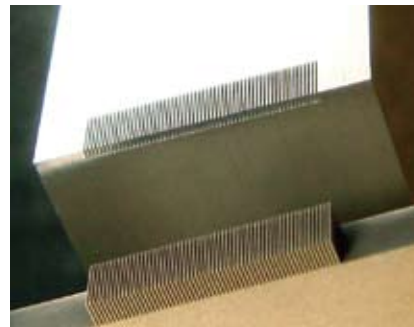
保証システム

世界初!「アークレス保証」 “絶対アークしない”放電加工を実現

新開発の放電電源装置により、形彫り放電加工時の“絶対アークしない”加工を実現いたしました。この理想的な加工性能の確立にあたり、本年度より世界初となる「アークレス保証」を開始いたしました。この“絶対アークしない”加工性能の実現は、放電加工機のリーディングカンパニーである当社が長年培ってきた要素技術の集大成であり、これにより形彫り放電加工のパフォーマンスが飛躍的に向上し、お客様のものづくりに多大な貢献をいたします。

※アークレス保証について・・・保証の対象機は、現在「AP3L」「AG40L」「AG60L」の3機種です。当社規定の前提条件に該当（加工物に発生したアークが原因で金型が損傷したと当社が認定等）した場合、その金型の修理代金を補償させていただくという概要になっております。

※アークとは・・・放電加工におけるアークとは「異常アーク」「異常放電」などと言われる現象で、アークが生じると通常の加工面と異なる溶接したような熱変質層が形成されます。アークは、加工の進展を妨げるだけでなく、加工物や電極に大きな損傷を与えるなど、生産性を著しく低下させる現象です。



加工サンプル (AP3L使用)

受賞

日刊工業新聞社
「2008年 第51回 十大新製品 本賞」受賞
ナノマシンングセンタAZ 250

世界初となるエネルギー相殺型ツインリアモータ駆動により光学系/医療関係などの超微小・超微細形状を超高速・高加速無振動で加工することが可能です。

従来よりも5(～10)倍以上の高効率とナノメートルレベルの加工精度を実現し、日刊工業新聞社「2008年 第51回 十大新製品 本賞」を受賞いたしました。



プライベートショー

'09 新春アカデミックセミナーを開催

2月6日～2月7日までの2日間、横浜本社にて'09新春アカデミックセミナーを開催しました。アカデミックセミナーでは“ゼロ消費”の活用事例をはじめ、ソディックの新放電技術による斬新な“ものづくり生産革命”の数々をご提案しました。今回のアカデミックセミナーは、新しくなったショールームで行い、来場者の方々に多くの製品をご覧頂くことができました。



未来を創る

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年の12月24日付をもちまして、株式会社ソディックの代表取締役役に就任いたしました藤原でございます。

第33期の経済環境を改めて顧みてみますと、米国に端を発した金融危機の影響は当初の想定よりもはるかに大きく、金融市場のみならず世界中の実体経済にもおよび、世界同時不況という異例の事態を招きました。わが国におきましても設備投資の減少や欧米向け輸出の鈍化は著しく、当社グループの主要なお客様である金型業界の設備投資需要が急減するという形であられました。

こうした中で、当社グループは革新的な新製品を積極的に投入するなど、営業努力を続けてまいりましたが、外部環境の急激な悪化には抗することができず、連結ベースの売上高は、545億33百万円(前年同期比27.9%減)にとどまりました。このような先行き不透明感が濃い環境ですので、誠に遺憾ながら期末配当は無配とさせていただきますと存じます。

当社グループはこの厳しい経営環境を乗り切るため、中期経営計画を策定し、徹底的なコスト削減、大規模なグループの再編を行い企業基盤の整備を進めております。当社グループの放電加工機は、お客様に高く評価をいただいておりますが、この評価に甘んじることなく、新興市場など将来性のある市場を開拓してまいります。さらに安定性の高い食品機械事業の拡充や、放電加工機の消耗品や保守サービスを積極的に収益化し、外部環境に左右されにくい、株主の皆様にご評価いただける企業体質を目指します。

これからのソディックグループは、今までに培った高い技術やノウハウを活かし、ものづくりの世界を通じて社会の未来創りに貢献したいと考えております。「未来を創る」、この言葉にふさわしいソディックグループになるためにも、当社の社是である「創造」「実行」「苦労克服」の信念の下、鋭意専心、社業の発展のために精励いたす所存です。株主の皆様におかれましては今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 藤原克英

CONTENTS

Sodick Corporate Highlights	1
株主の皆様へ	2
当期の業績	3-4
特集 中期経営計画について	5-6

連結財務諸表(要旨)	7-8
株式情報/株式分布/会社概要/役員	9
株主メモ	10

■ 当期の概況

当連結会計年度のわが国経済は、米国の金融機関の破たん
に端を発した世界同時不況や急激な為替変動などに見舞われ、その影響は製造業、建設業、不動産業など幅広い業種に及びました。そのため企業業績は低迷し、それに伴い雇用・所得情勢にも厳しさが増すなど、景気は悪化の一途をたどりました。

このような経営環境の中において、当社グループはお客様の生産性の向上に貢献する新製品の研究開発と受注の獲得に注力するだけでなく、販売費及び一般管理費の抜本的な見直しを図り、コスト削減に取り組んでまいりました。また、主要な子会社である株式会社ソディックCPCの吸収合併をはじめとした大幅な組織再編も行い、徹底した事業の効率化も追求してまいりました。しかしながら、当社グループの重要な取引先である金型業界の設備投資の抑制は想定以上の水準であり、業績は当初の計画を下回る非常に厳しい状況で推移しました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は前年同期比211億13百万円減(27.9%減)の545億33百万円となりました。また利益面では、営業損失は25億12百万円(前年同期は営業利益51億33百万円)、経常損失は57億17百万円(前年同期は経常利益44億98百万円)、当期純損失は85億27百万円(前年同期は当期純利益2億44百万円)となりました。

■ 次期の見通し

今後のわが国経済は、企業業績の悪化と金融市場の混乱を背景に厳しい経済情勢が継続すると思われませんが、海外経済においては各国政府の経済対策の効果により景気が持ち直すことが予想されます。

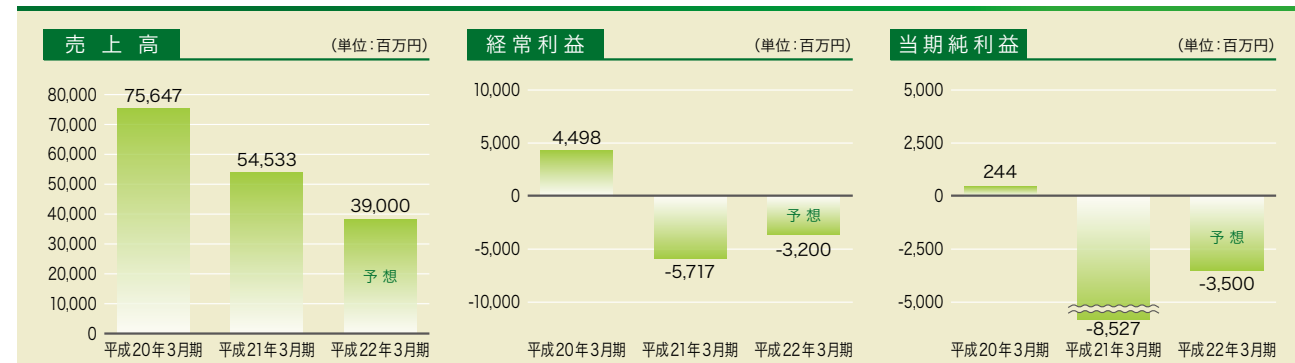
今期の当社グループの経営環境につきましても、国内市場においては依然として設備投資需要が低迷することが想定されますが、近年売上比率の高まっている海外市場においては設備投資需要に回復の兆しが表れている地域もあり、経営環境は回復傾向にあるといえます。また、ものづくりの世界においてはハイブリッド車に代表されるような環境に配慮した製品の開発が求められており、今後も様々な分野で環境対応製品の研究開発への設備投資が期待できます。このように依然として予断を許さない状況ではあるものの、経営環境は緩やかに改善するものと思われれます。

また、昨今の経営環境の急激な変化に対応するため、当社グループは「経営改善計画」を策定し、徹底的なコスト削減と抜本的な組織再編による経営資源の最適化・合理化を進めており、早期の黒字化を目指しております。

このような状況の下、平成22年3月期の当社グループの業績を、連結売上高390億円(前期比28.5%減)、連結営業損失31億円、連結経常損失32億円、連結当期純損失を35億円と予想しております。

※上記の予想をする際に使用した想定為替レートは、対米ドル期中平均レート98円、対ユーロ期中平均レートは130円、対タイバツ期中平均レートは2.8円です。

■ 連結業績ハイライト



■ セグメント別概況

■ 工作機械事業

売上高構成比



国内市場においては主要な顧客である金型業界の設備投資需要が低調に推移したことや、海外市場においても世界経済減速の影響による設備投資需要の落ち込みが顕著に見られました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比182億49百万円減(33.7%減)の358億74百万円となりました。

■ 産業機械事業

売上高構成比



小型精密射出成形機シリーズは、上期においては原油をはじめとした原材料価格の高騰などの影響により、下期においては世界金融危機の影響により設備投資需要が減退したこともあり、国内外ともに業績に大きく影響しました。特に韓国では通貨不安の影響もあり需要の減少が顕著でした。液晶パネルの検査装置用の精密XYステージは、上期は液晶製造関連業界の需要回復に支えられ堅調に推移しましたが、下期においては世界金融危機の影響により需要が大幅に減少しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比13億58百万円減(10.0%減)の122億4千万円となりました。

■ 精密金型・精密成形事業

売上高構成比



景気減速に伴う自動車関連企業や電気部品関連企業の生産調整の影響が見られ、主力製品であるコネクタの出荷が減少いたしました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比14億76百万円減(28.5%減)の37億8百万円となりました。

■ 食品機械事業

売上高構成比



食品機械事業は、各種製麺機、麺製造プラント、冷凍プラントおよびトレスピリティーシステムなどの事業を展開しております。食品機械の需要は景気変動に影響されにくい傾向にありますが、当事業の売上高は前年同期比4億23百万円減(17.3%減)の20億19百万円となりました。

■ その他の事業

売上高構成比



大型ファインセラミックスの製造販売、金型生産統合システムの販売は工作機械の販売量減少の影響を受けましたが、堅調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比1億22百万円増(15.6%増)の9億3百万円となりました。

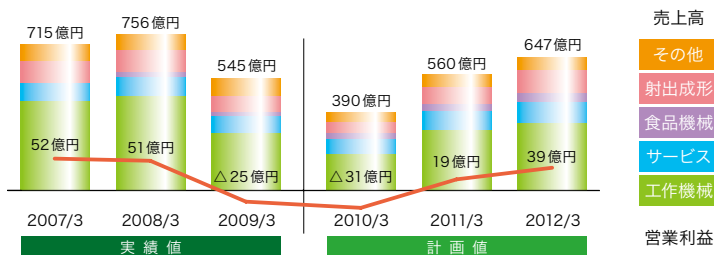
中期経営計画について

現在ソディックグループは、厳しい経営環境を克服し、株主様のご期待にお応えするソディックグループとなるために、「景気に左右されにくい強い事業体制」と「持続的な成長のための基盤づくり」に向けて、積極的な施策を実行しております。

経営方針

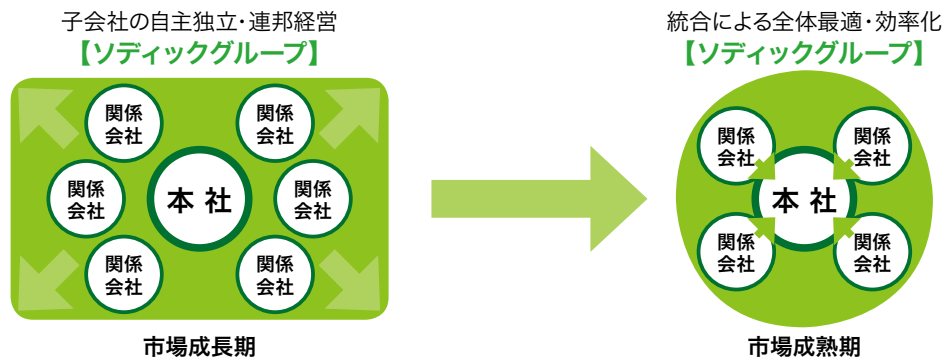
- ① グループ経営資源の最適化
- ② 各セグメント市場環境に応じた事業ポートフォリオを再構築
- ③ さらに価値創造に向けた6つの戦略の実行

連結事業別売上高・営業損益実績値及び計画値



① グループ経営資源の最適化

- 連邦経営から中央集権経営体制への組織改変・・・「部分」最適から「全体」最適へ



2009年3月期から人件費、その他経費削減と子会社の吸収合併、拠点集約統合を行うことで経営環境の変化に即したコスト削減を実施しています。

② 各セグメント市場環境に応じた事業ポートフォリオを再構築

ソディックグループ全体の組織見直しに伴い、各事業（工作機械事業、産業機械事業、精密金型・精密成形事業、食品機械事業、その他の事業）の外部環境や将来性に合わせて、ヒト・モノ・カネの配分を再検討いたします。これにより各事業の安定性の確保と収益性の向上を目指します。

③ さらに価値創造に向けた6つの戦略の実行

1. アフターマーケットの収益化

カスタマーエンジニアリング部門を設置し、クライアントへの継続的な技術指導や保守契約によるメンテナンスで、周辺機器や消耗品の販売強化を図ります。



2. 切削と放電の重ね売り

放電加工機（非接触加工機）と直彫りのミーリングセンタ（接触加工機）の両方を同時に取り扱うことにより、お客様の用途に合わせた最適なお提案を行います。



3. 新興市場での拡販

BRICsやVISTAといった将来市場の拡大が見込まれる地域には、現地法人・販売会社を積極的に展開してまいります。また、産業が成長過程にあるこれらの新興市場にふさわしいエントリーモデルを市場に投入し、シェアの獲得に努めてまいります。

4. 専用機の開発

航空宇宙産業や医療機器産業においては、工作機械への要求レベルは非常に高度で、特殊性も高いといえます。この要求にお応えするため、ソディックグループのノウハウが詰め込まれたベースマシンをもとに専用機を開発してまいります。

5. 食品機械事業

外部環境に左右されやすい工作機械に比べ、安定的な受注、生産が見込まれる食品機械事業への注力をいたします。また、企画開発から加工、搬入、メンテナンスのトータルサポートも行っております。



6. 自社開発要素技術の外販

ソディックグループは、放電加工機に革命を起こしたリニアモータなど、自社開発の優れた要素技術を有しております。このリニアモータをはじめとするモーションコントローラやセラミック部材などの独自の要素技術を他の分野に販売し、事業の拡大を目指します。



連結貸借対照表

科目	期別	前期(32期) 平成20年 3月31日現在	当期(33期) 平成21年 3月31日現在
資産の部			
流動資産		70,464	51,297
現金及び預金		19,974	18,717
受取手形及び売掛金		26,117	13,226
割賦売掛債権		277	240
たな卸資産		20,489	—
商品及び製品		—	5,997
仕掛品		—	5,933
原材料及び貯蔵品		—	5,753
繰延税金資産		1,785	174
その他		2,554	2,147
貸倒引当金		△ 734	△ 892
固定資産		33,502	33,053
有形固定資産		27,155	25,649
無形固定資産		2,255	3,507
投資その他の資産		4,092	3,897
投資有価証券		2,864	1,502
長期貸付金		312	1,440
その他		1,400	1,350
貸倒引当金		△ 484	△ 395
資産合計		103,967	84,351

科目	期別	前期(32期) 平成20年 3月31日現在	当期(33期) 平成21年 3月31日現在
負債の部			
流動負債		47,785	42,809
支払手形及び買掛金		15,068	5,724
短期借入金		19,234	28,113
1年内返済予定の長期借入金		3,516	2,451
1年以上償還期限到来の社債		3,420	2,434
未払金		2,021	1,118
未払法人税等		723	—
その他		3,800	2,966
固定負債		13,433	14,140
社債		3,560	1,226
長期借入金		7,605	10,095
その他		2,266	2,816
負債合計		61,219	56,950
純資産の部			
株主資本		37,984	27,288
資本金		20,755	20,775
資本剰余金		6,949	6,949
利益剰余金		11,230	1,698
自己株式		△ 971	△ 2,135
評価・換算差額等		16	△ 1,721
その他有価証券評価差額金		249	△ 135
その他		△ 231	△ 1,585
新株予約権		42	71
少数株主持分		4,704	1,762
純資産合計		42,748	27,401
負債純資産合計		103,967	84,351

連結損益計算書

科目	期別	前期(32期) 平成19年4月1日～ 平成20年3月31日	当期(33期) 平成20年4月1日～ 平成21年3月31日
売上高		75,647	54,533
売上原価		51,941	39,456
売上総利益		23,706	15,077
販売費及び一般管理費		18,594	17,602
営業利益又は営業損失(△)		5,133	△ 2,512
営業外収益		783	570
営業外費用		1,418	3,775
経常利益又は経常損失(△)		4,498	△ 5,717
特別利益		163	295
特別損失		1,835	1,492
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)		2,825	△ 6,914
法人税、住民税及び事業税		1,985	459
過年度法人税等		137	△ 104
法人税等調整額		69	1,718
法人税等合計		2,193	2,073
少数株主利益又は少数株主損失(△)		388	△ 460
当期純利益又は当期純損失(△)		244	△ 8,527

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別	前期(32期) 平成19年4月1日～ 平成20年3月31日	当期(33期) 平成20年4月1日～ 平成21年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		2,042	1,935
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 7,133	△ 7,088
財務活動によるキャッシュ・フロー		4,049	4,605
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 665	△ 747
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△ 1,706	△ 1,295
現金及び現金同等物の期首残高		21,164	19,781
新規連結子会社の増加または合併に伴う 現金及び現金同等物の増加額		324	207
現金及び現金同等物の期末残高		19,781	18,693

連結株主資本等変動計算書 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	株主資本					評価・換算差額等	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
前期末残高	20,775	6,949	11,230	△ 971	37,984	16	42	4,704	42,748
当期変動額									
剰余金の配当			△ 1,013		△ 1,013				△ 1,013
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減			△ 53		△ 53				△ 53
持分法の適用範囲の変動			△ 23		△ 23				△ 23
当期純利益又は当期純損失(△)			△ 8,527		△ 8,527				△ 8,527
連結範囲の変動			84		84				84
自己株式の取得				△ 1,163	△ 1,163				△ 1,163
自己株式の処分				0	0				0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△ 1,737	29	△ 2,942	△ 4,650
当期変動額合計			△ 0	△ 9,532	△ 1,163	△ 1,737	29	△ 2,942	△ 15,346
当期末残高	20,775	6,949	1,698	△ 2,135	27,288	△ 1,721	71	1,762	27,401

株式情報 (平成21年3月31日現在)

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	53,432,510株
株主数	17,374人

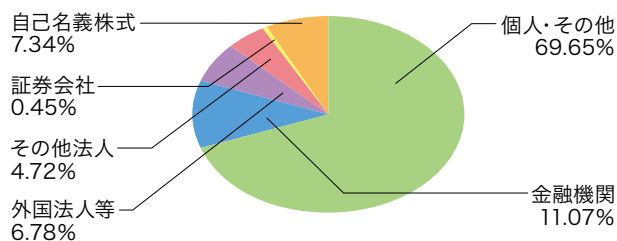
大株主 (平成21年3月31日現在)

株主名	名寄株式数(株)	持株比率(%)
株式会社ソディック	3,919,716	7.33%
古川 利彦	2,345,975	4.39%
ノザトラストカパニ(エイブイエフ)サブアカウントアメリカンクライアント	1,246,800	2.33%
株式会社三井住友銀行	850,000	1.59%
ソディック共栄持株会	783,300	1.46%
鈴木 正昭	707,760	1.32%
株式会社北陸銀行	700,000	1.31%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	579,200	1.08%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	513,300	0.96%
株式会社北國銀行	500,000	0.93%

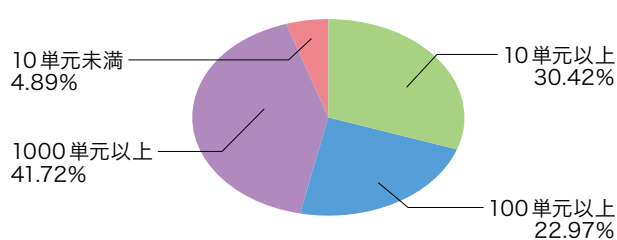
会社概要 (平成21年6月26日現在)

会 社 名:	株式会社ソディック
所 在 地:	本社 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号 〒224-8522 TEL:045-942-3111(代表)
設 立:	昭和51年8月3日
資 本 金:	207億7,575万6,958円
代 表 者:	藤原 克英
従 業 員 数:	355人(連結3,158人) ※平成21年3月末現在
連結子会社:	31社 ※平成21年3月末現在
営業品目:	NC形彫り放電加工機/NCワイヤ放電加工機/NC細穴放電加工機/特殊放電加工機および専用機(パレットチェンジャ、ロボットなど)/数値制御電源装置/放電加工機専用治具/ハイスピードミーリングセンタ/ナノ加工機/生産統合システム/精密射出成形機/工業用セラミック/産業機械向けリニアモータ/その他電気加工装置/放電加工機用ワイヤ線/精密金型・精密成形品/電子部材/各種ソフトウェア/食品機械/委託研究および製品開発/その他

所有者別株式分布状況 (平成21年3月31日現在)



所有株式数別株式分布状況 (平成21年3月31日現在)



役員 (平成21年6月26日現在)

代表取締役会長	古川 利彦
取締役副会長	鈴木 正昭
代表取締役社長	藤原 克英
取締役副社長(欧米営業担当)	渡貫 雄一
取締役副社長(生産統括担当)	保坂 昭夫
常務取締役(国内営業担当)	松井 孝
常務取締役(亜細亜営業担当)	高木 圭介
常務取締役(カスタマーエンジニアリング事業担当)	唐戸 幸作
常務取締役(研究開発担当)	金子 雄二
取締役(国内営業副担当)	表田 俊二
取締役(生産技術・国内生産担当)	小林 繁
取締役(財務・経営企画・情報システム担当)	古川 健一
取締役(カスタマーエンジニアリング事業副担当)	久保 光宏
常勤監査役	楠 左衛治
監査役(非常勤)	小山 秋吉
監査役(非常勤)	大木 國男
監査役(非常勤)	下山 和人

※監査役のうち、小山秋吉、大木國男及び下山和人は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.sodick.co.jp/ir/ir-f.html (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

○特別口座に登録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取(買増)請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(*)	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	[手続き書類のご請求方法] ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/

(*) 特別口座に登録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

○証券会社等の口座に登録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
○上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	